

ランチョンセミナー8

11月16日（日）11:30-12:30 第2会場（2F 中会議室 201B）

共催：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

血液ガス迷宮からの脱出！～解説のカギは“患者情報”～

座長：高橋政江（新潟県立妙高病院）

演者：濱田宏輝（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 POC 事業部
学術担当）

血液ガス分析は簡便かつ短時間の測定で結果が得られる POCT であり、その意義は対象患者が生命の危機に陥っていないかを知ることにある。しかし医療従事者の中には読み方に不安を持つ方が多いという現状がある。血液ガス分析を読むには測定値だけではなく患者情報を結び付けることが重要であり、本講演では呼吸状態と酸塩基平衡といった基本的な血液ガス分析の解説法に加えて、症例の供覧から血液ガス分析と患者病態がいかに繋がっているかについて解説する。【呼吸状態】最も一般的な酸素化の指標は pO_2 だが、実は pO_2 を単独で評価するのではなく、吸入気酸素濃度（ FI_{O_2} ）を加味した P/F 比として評価することでより正確な評価をすることができる。【酸塩基平衡】 pH を変化させる要因は呼吸性因子（ pCO_2 ）と代謝性因子（ HCO_3^- ）があり、この3つのパラメータを順序通り解説することで酸塩基平衡の状態、代償反応の有無や程度などを把握することができる。